

われわれの病院・診療所は  
働くひとびとの医療機関である



船橋二和病院ホームページアドレス  
http://www.futawa-hp.jp



船橋二和病院  
船橋二和病院健康友の会  
〒274-0805  
千葉県船橋市二和東5-1-1  
TEL 047(448)7111(病院)  
TEL 047(449)4417(健康友の会)  
発行責任者 伊藤 潤  
月一回発行 1部 50円



2021年を迎え、船橋二和病院は建設40周年の節目となります。船橋二和病院のリアルも控え、これからの船橋二和病院・民医連を担う世代にお集まりいただき、松隈院長と岡本友の会事務局長を交え、船橋二和病院の歴史を振り返りながら、それぞれの課題や展望、思いを語っていただきました。



- 参加者**
- 松隈 英樹……船橋二和病院……院長
  - 岡本 功……友の会……事務局長
  - 鎌田 美保……産婦人科……科長
  - 水島 万佐子……医療福祉相談室……課長
  - 清家 宏二……病院医事課……課長
  - 我妻 裕美……理学療法室……主任
  - 小石 美保……2階中央HCU看護主任
  - 福隅 雄大……組織部(司会)



地域住民との関わりの中で  
民医連の医療は育まれてきた

**司会** 船橋二和病院の開設当時の医療情勢・患者さんや地域の様子などお話し下さい。



松隈 英樹  
船橋二和病院 院長

**松隈** その当時、私は医師になって4年目で南浜診療所所長に就任しました。南浜病院から診療所に移行するに当たり、地域の方々からかなり反発を受けていました。患者さんも激減してしま...

**岡本** 歴史的な事ですが戦後間もない時代に、都疎(とそ)浜(はま) (東京都の方(なた)が疎(とそ)開(ひら)け町をつくったこと(が由来)という地域は、衛生状態が悪く赤痢・疫痢などの流行病がかなり頻回に起こっている不衛生な町でした。その状況下で都疎浜の町会自治会が「何とかこの町に診療所をつくりたい」という要求から(旧)南浜診療所を立ち上げました。その後、南浜診療所は南浜病院に発展しましたが、船橋市に民医連のセンター病院をつくるとうことで、船橋二和病院を建設することになりました。その経過の中で、南浜病院は再度、診療所に移行することとなりました。

ところが、診療所に移行することに「夜間も診察できなくなる」「救急も見てくれなくなる」など不安を抱え、地域の反発が強く、繰り返し話し合い、ようやく診療所の移行に合意しました。



水島 万佐子  
医療福祉相談室 課長

**水島** その当時とは、時代も変わってきていて地域の方の声を直接聞く機会も少なくなってきたと思います。病院の中に行くと、病院側の視点になってしまっていて、「地域の方々の声」



鎌田 美保  
産婦人科 科長

「地域の方が何を求めているのか」などの声を私たち職員が受け止めきれないと感じています。私たち職員も地域を知るためには、可能な限り外に出ていくことが必要なことだと思いますね。

**鎌田** 来院してくれる患者さんに対しては、精一杯応えることができて、来院さえできない方々もいるのだらうなと常に気がかかっています。産婦人科は分娩を休止した経過もあり、その中で「本当に分娩再開できるのか」「地域に求められているのか」と凄く不安になりながら日々を送っていました。しかし、地域の方から船橋市長宛に「船橋二和病院の分娩を再開してほしい」「そのために市として医師を確保してほしい」と投書が寄せられたことを耳にし、私たちにとっては凄く励みになりましたし、地域の方々に支えられているという一端が見えた瞬間でもありました。改めて、地域に求められる



小石 美保  
2階中央HCU 看護主任

産婦人科をやっていたいと決意しました。

**小石** ご高齢者訪問や気になる患者さん訪問に同行させて頂いた時に、高齢化も進み高齢の夫婦で生活している方々が増えていて、「医療を受けたくても、自分から発信出来ないでいる人」がどれだけいるのかという状況を実感しました。私たち職員も地域を知るためには、可能な限り外に出ていくことが必要なことだと思いますね。

**我妻** 経験が浅く病院内だけでしか働いていないスタッフが増えてきている中では「地域でどのような生活をしているのか」など見えていないことが課題に感じています。私自身も訪問に携わる機会があったのですが、思った以上に「地域力」があることが実感できず。在宅のスタッフがごく尽力してくれていますし、「日常生活に戻すリハビリ」のために在宅分野との連携を強めて切れ目のないリハビリを提供していく必要があると感じています。

**清家** 病院事務としては、患者さんや地域にかかわる機会が少なくなっている側面は確かにあります。地域ニーズや患者





さんの声に100%応えることは理想ですが、応えようと努力はしているけれども、一方では国の医療政策に従わざるを得ない側面もあり、目指す医療との乖離に葛藤しています。更に現実には、医師・看護師・介護職不足ですから、「患者さんの声」にどこまでこたえられるか、悩ましい問題です。

**司会** それぞれ医療情勢と職場・地域との関係で課題があることがわかりました。

1981年に船橋二和病院が開設され、どのような課題があり、どう乗り切って成長していったのか参考にしたいですね。



功会長の  
本友事務  
岡二事務

**岡本** どのように船橋二和病院が発展してきたかという点、まず診療科が増えていきました。

地域の要望に応え、信頼を勝ち得ていく病院となつていった状況下で、友の会も大きく発展していった経過があります。当時1千458名の会員が現在では8千830名の組織となっております。

**松隈** 医師たちが自分たちのやりたい医療を追求しチームを教育、病棟づくりの励み、循環器科やリハビリ科の医師を複数体制にして発展した経過もあります。



それに逆行するかのようには、政府が医療費削減に舵を本格的に切り始めた時代でもありません。診療報酬の削減政策が続き、収益が上がらない時代に突入していきました。その中でも研修医を確保しなくてはならないとの思いで「臨床研修指定病院」を取得しようと思死になつて奮闘してまいりました。そうしなければ、医師確保が困難になる状況に陥ってしまうからです。

臨床研修指定病院を取得するためには、様々な手書きを作り守っていく必要もあります。更に医療ミスも社会問題となるようになり、非常に医療活動が煩雑化していきました。299床規模に発展・成長したはいいいけど、一部の医師たちからは不安の声も始めていたことを記憶しています。

その後、専門分化が始まったことで、船橋二和病院で出来ることも限られ、理想と現実の乖離がでてきましたね。船橋二和病院に不満ではないけれども、大きな志を持って他院へ退職していった医師もいます。凄くがっかりしましたけど(笑)。

明るく元気に励んでほしい  
支える仲間がいることが強み

**司会** 課題がある中で「職場づくり」がこれからの展望に繋がる重要な力だと思えますが、その点ではどうでしょうか。



裕美  
理療法室  
我妻主任

**鎌田** 「職場づくり」の観点だと私は現在、模索中です(笑)。内科や眼科の患者さんを診ている中で、以前よりも職員に求められることが多くなつてきていることを実感しています。一方では妊娠・分娩では社会的なハイリスクや支援が必要な方の割合がかなり増えてきていますし、スタッフの中にも疲弊感が出て来ている。

私自身は一部の内科の患者さんも診させていたでいていのですが、何か役割を果たすことができないか、師長や他の医師も含め相談しながら挑戦中です。

**小石** 私は職場の皆に明るく元気に仕事に励んでいてほしいし、心も身体も元気でいて欲しいと常に思っています。

以前は急性期でも入院から退院までの支援に携わつてきていたので、一貫して患者さんのことが見えやすかったのですが、機能分化と専門的な役割が増えて、どうしても患者さん一人の像が捉えにくくなつてきています。そのことも原因で業務をこなすことだけに偏り、業務が煩雑化している中で疲弊してきている仲間がいます。その中で退職せざるを得ない人もいますが、船橋二和病院は職員の生活を気にかけてくれる環境もありますし、支えるチームや職場の仲間がいることが職場の強みだと感じています。

いので、働き方も多様性が求められ、その人たちに合せた働き方をどう考えていけるかが大事だと考えています。



二和  
院医事課  
清家課長

**清家** 一つの時代も「最近の若者は…」と言われますが、良くも悪くもデジタル化の急速化の中で、育つてきた環境が年代で異なるという前提で職場運営を行つていかなければいけないと考えています。

民医連の事務職員は、昔は電球の交換から診療報酬の算定までと【何でも屋】みたいな側面もありましたが今は機能分化して、厚労省の規定も細かく、そのハードルを一個一個超えていかなければならないのが現実です。

**我妻** 職場としては、職員の動機づけ作りを重点に捉えて【自立】と【自律】を促す職場運営「生き活きとやりがいをもって働くことができる職場」「選ばれる職場、定着できる職場づくり」の3本柱を立てて、試行錯誤しながら実践している状況です。

**司会** 病院の連携と友の会をはじめ地域との連携が特色と強みになっていっているのではないのでしょうか。

**岡本** そうですね。最近の出来事ですと、友の会が開催している「なんでも相談会」に、ご高齢の女性の方が相談にいらつしやいました。居住地の役員さんに相談内容と状況を報告し、ご自宅にまで足を運んでいただき課題を整理し、一緒に地域包括支援センターに相談した経過がありま

自己完結型から脱却し  
友の会を含めた地域連携を

チームとして向上していくという過程では、一人ひとりを巻き込んでいくことや、一つひとつの事例を深く考察していくことも必要だと考えています。たとえば、保険証の情報(国保・社保や公費)をもっているかどうか等)で色々と見えてくることもありますし、事例を掘り下げて学ぶことが重要と考えますね。

**水島** 事例を大事にしたいとお話がありました。船橋二和病院は他病院との連携の視点からは孤立している印象があります。船橋二和病院は自己完結型病院を地で目指していた訳です。しかし、このコロナ禍でも浮彫になりましたが、今までのやり方では病院はやっていけないことがよくわかりました。これからの課題は自己完結型を脱却し、他病院・施設との連携が求められています。

現状では病院が自己完結型になつてしまつているので、それをどうやって生活につなげていけるかが課題ですが、退院支援の強化が優先になつてしまつたので、地域に出ていくことまで踏み出せない状況です。

容と状況を報告し、ご自宅にまで足を運んでいただき課題を整理し、一緒に地域包括支援センターに相談した経過がありま

委員さんとも連携を取り、日々の見守りや生活面でのフォローをしていく状況を作りだすことができました。

の中で「安心して地域で暮らせるまちづくり」ができますし、こうした連携がこれからの高齢化社会に一層求められているのではないのでしょうか。

**松隈** その様な友の会の活動内容や患者情報をもっと医師はじめ職員に情報共有や連携を強められることが必要です。

2014年に院長に就任して、船橋市の医師会、特に病院長会議に出席するようになり、当時、船橋二和病院は他病院との連携の視点からは孤立している印象がありました。船橋二和病院は自己完結型病院を地で目指していた訳です。しかし、このコロナ禍でも浮彫になりましたが、今までのやり方では病院はやっていけないことがよくわかりました。これからの課題は自己完結型を脱却し、他病院・施設との連携が求められています。

**岡本** この間、小室地域に「友の会小室地区」を立ち上げようと、準備会が発足しています。小室地域の方々からは、巡回バスを小室に通してほしいと要求があります。

**水島** 病院としても、どうしても昔と同じような医療活動が制度上できなくなつてきていることを地域の方々にご理解いただければいいですね。

**松隈** 職員の英知を集め、同じ方向に向けていくことが必要です。病院内だけではなく、転院先の病院や施設と常に連携をしなければ、患者さんのいのちや健康を守る事も、ご家族を安心させることもできません。地域・友の会との連携は必要不可欠ですし、役割は本場に大きいですよ。

年会費納入のお願い

前年の12月にご入会いただいた方は、会費納入の時期です。また、それ以前にご入会の方で、会費をお支払いいただけていない方も、会費の納入をお願いいたします。ふたわ診療所友の会コーナー(月々金/10時/12時)・友の会事務所(月々金/10時/16時)で受付いたします。お問い合わせは友の会事務所まで。納入の際は会員登録をお持ちください。また、お近くの友の会役員が、お訪ねする場合同じです。よろしくご協力ください。

友の会事務所 ☎047(449)4417